

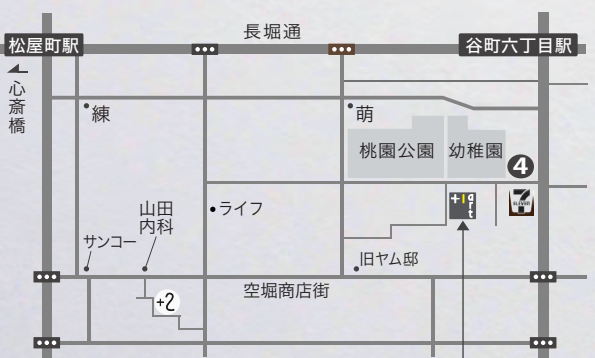
Norio Imai · Yuki Nakagawa

踊る心 / 考える耳 | 今井祝雄 · 中川裕貴

音楽家ジョン・ケージは無音の状態を経験するために、無響室に入った。外界の音をすべて遮断する部屋の中で、音は聞こえないはずなのに、彼はかすかに二つの音を聞いた。それは、一つは「神経系が働いている音」もう一つは「血液が流れる音」と後にわかった、という。「神経系が働いている音」は神経細胞が発する電気信号。「血液が流れる音」は心臓の鼓動する音のことだろうか？ どちらも身体の内面で生じる音であり、耳を澄ませても普通は聞こえない。ケージは無響室でそれを「聞いた」というより、音楽家のところで「感じた」のだろう。

このたび心臓音をテーマに美術家と音楽家による二人展を開催することになった。未知の経験をしようとしたケージは（思いがけず）所与である身体を発見したが、本展では年齢もジャンルも違う二人が所与の再構築に挑む。ここ踊らずにはいられない。

+ | a | r | t カワラギ



STUDIO RAKUDO

+ | a | r | t

谷町六丁目駅④徒歩1分
出口右手の石段を下り小路を左に

542-0012 大阪市中央区谷町6-4-40
www.plus1art.jp TEL 06-7712-6685



2
0
2
1
3/17-4/3



3 / 17 (水) - 4 / 3 (土)

PM 12 - 7 (最終日 PM 5 まで)

休廊 日・月・火曜・3/20 (土)

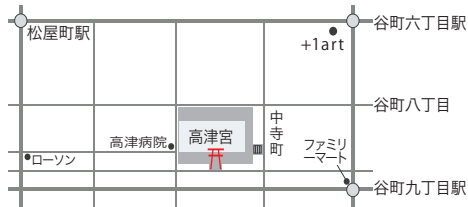
●3/20 (土) はイベント開催のため休廊、詳細は下記をご覧ください。

関連イベント

3/20 (土) PM 2~

- パフォーマンス 『おとのはディスタンス』 今井 祝雄+中川 裕貴
- トーク 『こころ踊る音』 川崎 弘二* x 今井 祝雄・中川 裕貴
* 川崎 弘二 (電子音楽研究、『武満徹の電子音楽』等、著書多数)
- ライブ 中川 裕貴

| 場 所 高津宮「富亭」(+1art から徒歩15分)
大阪市中央区高津 1-1-29 www.kouzu.or.jp
| 参加費 1000 円
| 要予約 gal@plus1art.jp



* 当日は休廊日ですが、イベント終了後 19 時まで +1art を開廊します。
* 諸事情により変更が生じる場合には、ホームページにてご案内します。

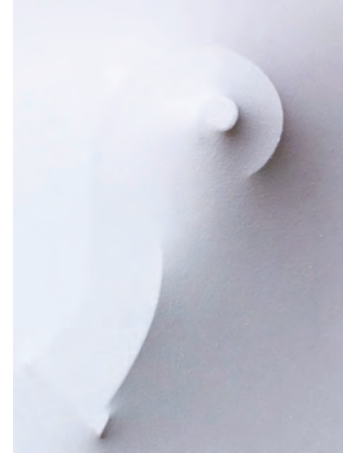
guerrilla live ゲリラ・ライブ

チェロ演奏 | 中川 裕貴

ギャラリーに於いて随時開催。日時等 詳細はホームページでお知らせします。

今井
祝雄

Norio Imai



《記憶の陰影-かたつむり》2020 (部分)

仰向けに置かれたむき出しのスピーカー。真っ黒なコーンペーパーの上で、[IMAI]と記された小さな紙片が躍っている。プルプルと震えてはひっくりかえり、ときにピョンと跳び上がりスピーカーから弾き出される。音源は私の心臓の鼓動である。1973年の拙作《踊る心》と、チェリスト中川裕貴による初のサウンド・インсталレーションがギャラリー空間で協奏する。ゆうに半世紀を隔てた二つの音が醸す共時的な“演奏”に耳を澄ませてみたい。

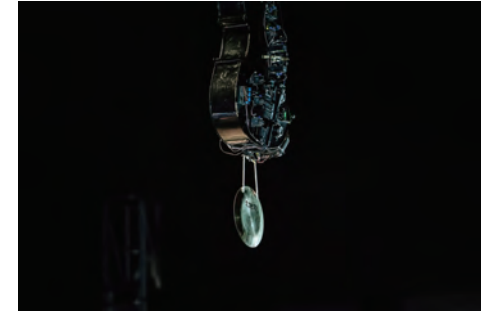


1946年大阪市生まれ。美術家。大阪市立工芸高校在学中から吉原治良に師事し、具体美術協会に参加。1966年、第10回シェル美術賞一等賞受賞。以来、内外の展覧会に出品多数。1970年代から写真やビデオ、サウンドによる作品を制作。1979年から毎日の自写像作品を継続。主著に『白からはじまる-私の美術ノート』、『デイリーポートレート-四半世紀・記憶の日記』、『オン・ザ・テーブル-パフォーマンス・イン・ブック』ほか、作品集に『タイムコレクション』(水声社)、『NORIO IMAI』(Axel and May Vervoordt Foundation)がある。

表面イメージ | 今井祝雄 《踊る心》 1973 スピーカー(直径20cm)+心臓音

中川
裕貴

Yuki Nakagawa



《Broken cello, Automatic play featuring Heartbeat》(部分)
2020 (photo by Yoshikazu Inoue)

今井祝雄さんの「踊る心」と共に、私がかつて使用した「壊れたチェロ」による自動演奏機構(チェロのボディに様々なパーツが取り付けられ、それらが駆動することでチェロが人の身体を介さず発音する仕掛け)を美術家・白石晃一さん監修のもと、稼働させます。この展覧会において、私は駆動するチェロとその機構/音、そして心臓音、揺れる“IMAI”の紙片のことを視聴(みぎ)きしながら、それらがひとつの空間である距離感を持って“踊れる”よう、広い意味での「作曲」に取り組もうとしています。この状況に“ききみみ”を立て、考えながら。

1973年の心臓音を、使用を終えたたちを変えた楽器によって「変奏」させる。その試みを会場で体験していただければ幸いです。



1986年三重県松阪市出身。京都市在住。同志社大学工学部情報システムデザイン卒業。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了(音楽学)。演奏と演出をチェロ/電気/適当な録音を使用して行う。演奏行為とそれによって現れる音のあいだに在る「距離」を測ること、また「演奏をしながら自身がそこ/ここでの存在するか」を問うこと(またそれへの頓智)をテーマとする。ソロと並行してバンドによる活動や、鳥丸ストロークロックをはじめとする舞台音楽、アーティストのサポートもいくつか行っている。